



県民の日記念イベント



明治6年6月15日、当時の栃木県と宇都宮県が合併して、ほぼ現在の栃木県が誕生しました。県民の日はこの日を記念して昭和60年に制定されました。制定の翌年からは、県が主催して県民の日記念行事を開催しています。

今年は、6月10日(土)、11日(日)の2日間、日光だいや川公園を会場に記念イベントが開催されました。会場には、「どうゆうのけんちょう？」と題した県の仕事を紹介するテントや県内の特産物を販売するテントが立ち並び、訪れた人の興味を引いていました。また、メインステージでは、栃木放送の生放送やFM 栃木の公開収録が行われたほか、キャラクターショーや郷土芸能の公演が行われ、多くの家族連れでにぎわっていました。



①子どもたちに大人気だったキャラクターショー。

②県農務部のテントには、子牛も。

フォトダイアリー



中宮祠小学校の全児童33人がヒメマスの記念放流に参加しました。

ヒメマス放流100周年記念式典

中禅寺湖のヒメマス放流100周年を記念した式典が6月2日(金)、中禅寺湖漁業協同組合の主催により、湖畔にあるポートハウスで行われました。

中禅寺湖では1906年(明治39年)に初めて、十和田湖産のヒメマスの稚魚(約35万匹)が

放流されました。以来、養殖や放流が盛んに行われ、今では支笏湖や十和田湖と並ぶ三大生産地となっています。

式典には、中禅寺湖漁業協同組合や県、市の関係者など約50人が出席しました。式典の後はヒメマスの記念放流も行われ、中宮祠小学校の児童がポートハウス脇の湖岸で5千匹の稚魚を放流しました。6年生の玉川恵さんは、「大きくなって、元氣よく産卵に戻ってきてほしいです」と話していました。

トロッコ・ファッション列車



人々に愛されています。今回のファッション列車は、わたらせ渓谷鐵道の魅力をもっと知ってもらおうと、群馬県のNPO法人が提案し、前橋市と桐生市の短大や服飾専門学校との協力で行われました。

列車が群馬県みどり市の大間々駅を出発すると、約50人の学生自らがデザインした衣装を着て行うファッションショーが開始されました。ショーは足尾町通洞の通洞駅まで行われ、乗客はカメラのシャッターを切るなどして楽しんでいました。



列車が通洞駅に到着した後、駅前でもファッションショーが開催されました。

福祉施設での特別人権相談

6月1日(木)、県内初となる福祉施設での人権相談が行われました。会場となった特別養護老人ホーム誠心園では、人権擁護委員や法務局の職員が相談を受け、丁寧に助言をしていました。

